

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		害虫等対策事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先		内線2843		
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	6	環境衛生		款	4	衛生費	
	施策の方向	1	自然環境の保全		項	1	清掃費	
					目	3	清掃総務費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	一般市民						
	目的 (どうしたいか)	衛生害虫及び不快害虫の抑制及び駆除を行うことにより、公衆衛生の向上を図り、健康で快適な生活環境を確保する。						
	手段 (事業内容)	公共用地や水路等に不快害虫抑制剤・害虫駆除液の散布を行う。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】	
当初予算額	事業費	250	300	300	薬剤購入(不快害虫抑制剤)	
決算額	事業費	248	298	—	【特定財源】	
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名		1年間で薬剤散布及び配布した延件数		単位
指標の説明		市民相談により、市が行った薬剤散布及び市民に薬剤配布した延べ件数		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		28	18	20
実績		18	27	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名		市が行った公共用地への薬剤投入及び散布率		単位
指標の説明		市民の相談により、原因場所が公共用地と判明した場合には薬剤の投入及び散布を行う。		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		100	100	100
実績		100	100	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	B
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。	

総合評価		現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題)		(令和3年度以後の事業実施への改善内容)	
減少傾向に見られた相談件数も、気候変動や生活様式の変化により増加してきた。外来種不快害虫の出現も予想されるため、今後引き続き本施策の充実が求められる状況。			他課との連携や、民間事業者の活用も課題となってくる。専門知識を持ち市民に的確な助言を送ることも求められてくる。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		飼犬登録及び狂犬病予防事務事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2842			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	6	環境衛生		款	4	衛生費	
	施策の方向	1	自然環境の保全		項	1	保健衛生費	
					目	3	環境衛生費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	犬を飼っている市民						
	目的 (どうしたいか)	飼い犬登録率・狂犬病予防注射接種率の向上を目指すと共に、狂犬病に感染しないように理解と予防に取り組む。						
	手段 (事業内容)	市内獣医師と委託契約し、市内40箇所での年1回の集合予防注射実施によって、各地域ごとに飼い犬登録と狂犬病予防注射の接種がしやすい環境を作り目的達成に取り組んでいる。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
当初予算額	事業費	1,104	1,096	1,096	【事業費】 予防注射関連文書送付料 259千円 鑑札等消耗品費144千円、登録・注射済票手数料徴収事務委託料 617千円	
決算額	事業費	991	1,020	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			【特定財源】
指標名	集合注射 会場数			
指標の説明	注射頭数向上のための取り組み			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	40	39	39	«事業の参考数値等»
実績	40	39	—	令和2年度末総登録頭数 5414頭 令和2年度注射頭数 3215頭
成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			
指標名	狂犬病予防注射の接種率			
指標の説明	登録頭数に対する注射頭数(注射頭数÷登録頭数×100)			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	60	60	60	
実績	60	60	—	

個別評価					
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。		A	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。			
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。			
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。			
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。			
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。			
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。			

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題)		(令和3年度以後の事業実施への改善内容)

法で定められている事業で、今後も狂犬病予防注射の接種率を向上させるよう、事業を継続していく必要性がある。

マイクロチップがほぼ義務化されるため、システム等の改修を含め対応していく必要がある。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		共同浴場管理運営事務事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2842			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	6	環境衛生		款	4	衛生費	
	施策の方向	1	自然環境の保全		項	1	保健衛生費	
					目	3	環境衛生費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民						
	目的 (どうしたいか)	保健衛生の向上及び生活環境の改善を図る。						
	手段 (事業内容)	施設のある地域町会に指定管理者として管理運営を委託し、利用者へのサービス向上を図る。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
当初予算額	事業費	4,975	5,085	5,007	【事業費】 維持補修費 2376千円 管理費 9226千円	
決算額	事業費	8,607	11,602	—	【特定財源】	
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	目標(見込)	実績	単位	日
指標の説明	営業日数			
	令和元年度	310	310	310
	令和2年度	309	312	—

«主な内訳(令和2年度決算)»

【事業費】
維持補修費 2376千円
管理費 9226千円

【特定財源】

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	目標(見込)	実績	単位	人
指標の説明	現金及び回数券による延べ入浴者数			
	令和元年度	21,000	21,000	21,000
	令和2年度	21,174	20,875	—

«事業の参考数値等»

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	成果は不十分である。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。	

B

C

B

総合評価		改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題)		
施設の老朽化や利用者は減少しており、現在進めている市営住宅の改修整備完了までに、閉鎖に向けての検討をする必要がある。		

今後の改善内容

(令和3年度以後の事業実施への改善内容)

市営住宅の集約建替えが完了する見込みであり、公衆浴場としての一定の役割は終えるため閉鎖に向けての検討が必要である。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		環境調査・監視事務事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2830			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	6	環境衛生		款	4	衛生費	
	施策の方向	1	自然環境の保全		項	3	公害対策費	
					目	1	公害対策費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市域の環境(水・大気・騒音等)						
	目的 (どうしたいか)	日常生活の住環境のために大気、河川水質、騒音の状況を監視し、被害・異常発生の未然防止に努める。						
	手段 (事業内容)	市域では府の環境監視を行う観測測定点がないため、人への健康被害や動植物への影響など環境被害が生じないよう河川水質(5水系、5定点)、大気質(一般環境DXN、2地点)、環境騒音・自動車騒音面的評価(幹線沿道4定点、一般地域23定点)での状態を年次で監視する。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】	
当初予算額	事業費	10,614	11,026	10,536	水質検査委託料	4,445,000円
決算額	事業費	9,157	9,232	—	大気検査委託料	2,904,000円
	特定財源等	0	0	—	環境騒音測定委託料	550,000円
					自動車騒音面的評価委託料	495,000円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	調査地点数	単位	地点	
指標の説明	羽曳野市域で測定を行っている調査の地点数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	36	36	36	
実績	35	36	—	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	一般環境騒音に係る環境基準達成率	単位	%	
指標の説明	全時間帯(朝・昼・夕・夜)での環境基準達成率			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	100	100	100	
実績	86	98	—	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価		現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題)			
市民からの環境に対する関心が高まっており、音、大気、ダイオキシンだけでなく、より多くの測定地点を増やすなどの改善が必要である。			
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)			
市民にとってよりよい住環境を創成するため、調査項目の再検討や新規調査項目の検討も必要になってきていく。			

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		環境相談・指導事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先		内線2830		
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	6	環境衛生		款	4	衛生費	
	施策の方向	1	自然環境の保全		項	3	公害対策費	
					目	1	公害対策費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民相談						
	目的 (どうしたいか)	生活環境の保全、向上、及び、地域の美化推進を図ることにより住み良いまちづくりを進める。						
	手段 (事業内容)	市民からの相談に対するアドバイス、工場・事業場に対する指導等。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】	
当初予算額	事業費	0	0	0	【事業費】	
決算額	事業費	0	0	—	【特定財源】	
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			«事業の参考数値等»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業の参考数値等】	
目標(見込)	事業費	110	80	80	公害苦情件数 34件 美化条例苦情件数 47件 (内解決件数 58件)	
実績	事業費	82	81	—		

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			«事業の参考数値等»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業の参考数値等】	
目標(見込)	事業費	75	92	80	公害苦情件数 34件 美化条例苦情件数 47件 (内解決件数 58件)	
実績	事業費	91	72	—		

個別評価								
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。			B			
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。						
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。						
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。			B			
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。						
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。						
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。			A			
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。						
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。						

総合評価		現状維持		今後の改善内容		
				(令和3年度以後の事業実施への改善内容)		
(担当部局による総合評価の理由や課題)				<p>課題としては相談内容が多種多様に及ぶため、対応に苦慮することがある。</p> <p>研修等への受講、装備の充実により、対応力や資質の向上を図る。</p>		
<p>今後、急激な生活環境の変化は考えられないため現状維持の評価とする。</p> <p>また、空地の苦情の場合、真の所有者を特定することが難しいことがあり、対応してもらえない或いはかなりの時間を要することが多い。</p>						

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		石川クリーン作戦事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2830			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	6	環境衛生		款	4	衛生費	
	施策の方向	2	環境美化の推進		項	1	保健衛生費	
					目	7	環境美化対策費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	石川河川流域、及び、流域住民						
	目的 (どうしたいか)	河川流域の水質向上及び水環境の改善を通じて流域住民の意識向上を図る						
	手段 (事業内容)	官民共同で河川流域の清掃。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 消耗品費 14,800円	
当初予算額	事業費	1,039	116	116		
決算額	事業費	1,016	15	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	参加者数	単位	人	
指標の説明	クリーン作戦当日の参加人数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	2,500	2,500	2,500	
実績	0	0	—	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	ごみの回収量	単位	t	
指標の説明	クリーン作戦でのゴミ回収総量			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	10	10	10	
実績	0	0	—	

個別評価					
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。		B	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。			
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。			
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	成果は不十分である。		C	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。			
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。			
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。			
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。			

総合評価		現状維持		今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題)		(令和3年度以後の事業実施への改善内容)		
現在、大和川流域において、環境、河川、下水道の各担当部局が、共に連携し、流域ぐるみで水辺環境の改善について計画等を策定し、取り組みを推進しているところです。		河川における水環境問題や流域市町村の水道水の取水問題、海洋域におけるマイクロプラスチックや漂流ゴミの問題などを含んでおり、事業を継続しながら将来の方向性の検討を行います。		

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		まちかど清掃事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2841			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	6	環境衛生		款	4	衛生費	
	施策の方向	1	自然環境の保全		項	2	清掃費	
					目	1	清掃総務費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市域						
	目的 (どうしたいか)	公共施設周辺のポイ捨てゴミの清掃を行うことにより、環境美化の啓発を行う。						
	手段 (事業内容)	市職員による駅前及び公共施設周辺の清掃活動						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】	
当初予算額	事業費	0	0	0	【事業費】	
決算額	事業費	0	0	—	【特定財源】	
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	開催回数	単位	回	
指標の説明	まちかど清掃開催回数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	2	2	0	
実績	2	1	—	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	職員参加人数	単位	人	
指標の説明	まちかど清掃参加延人数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	442	450	100	
実績	451	130	—	

個別評価					
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。		C	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。			
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響はない。			
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		C	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合が可能である。			
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。			
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。			
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。			

総合評価		縮小・統合		今後の改善内容		
(担当部局による総合評価の理由や課題)						
環境美化に対する意識の向上のために啓発活動の手法・手段を検討し、市域のポイ捨てゴミの減少に努めるために始めたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により開催を中止した。しばらく感染拡大防止の観点から開催については慎重にならざるを得ない。						
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)						
市職員への美化意識を高め、市内のポイ捨てごみの減少に努めることは必要であるが、コロナ禍において手法等検討が必要である。						

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		環境教育推進事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2830			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	6	環境衛生		款	4	衛生費	
	施策の方向	3	環境教育の推進		項	3	公害対策費	
					目	1	公害対策費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市域の小学生						
	目的 (どうしたいか)	環境教育の一環として、エネルギーと環境との関わりを考える授業や、水生生物とのふれあいを通じ、環境について関心を喚起し美化の推進につなげる。						
	手段 (事業内容)	関西電力(株)協力による「環境教育授業」(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)、大阪府石川河川公園との共催事業の「水辺の観察会」						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
当初予算額	事業費	50	30	30	【事業費】 消耗品費 22,418円	
決算額	事業費	0	23	—	【特定財源】	
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			«事業の参考数値等»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
目標(見込)	事業費	50	30	30	7月 水辺の観察会 15人	
実績	事業費	0	23	—	環境教育授業(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)	
	特定財源等	0	0	—		

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			«事業の参考数値等»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
目標(見込)	事業費	3	2	2	7月 水辺の観察会 15人	
実績	事業費	2	1	—	環境教育授業(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)	
	特定財源等	0	0	—		

個別評価						
		妥当性	有効性	効率性		
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	統廃合はできない。/類似事業はない。	A	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。				
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。				
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	貢献している。	受益者負担を求める性質のものではない。	B	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。				
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。				
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A			
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。				
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。				

総合評価		現状維持		今後の改善内容	
(担当部局による総合評価の理由や課題)				(令和3年度以後の事業実施への改善内容)	
<p>民間力の活用や大阪府との共催で事業を行うことにより経費の節減が出来た。また、環境保全への意欲の増進を目的とした環境教育の取り組みとして、感性の豊かな年代である小学生と家族を対象とした「水辺の観察会」や民間事業者が行う「電気の話」は、子どもたちの未来に向かって「環境」を身近に感じ、意識付けになることを目的としているので、事業の継続が望ましい。</p>				<p>水辺の観察会の参加人数が少し減少してきている。 小学生の関心を引く取り組みについて大阪府と協議し改善していく。</p>	

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		ペットボトル回収事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2840			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	7	ごみの減量化と再資源化		款	4	衛生費	
	施策の方向	2	ごみの再資源化の推進		項	2	清掃費	
					目	3	ごみ・減量リサイクル事業	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市域から排出されるペットボトル						
	目的 (どうしたいか)	ごみの減量化及び再資源化を図る。						
	手段 (事業内容)	公共施設や地域集会所等に専用回収容器を設置し、市内から排出されるペットボトルの回収を行う。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 ペットボトル回収ネット 1495千円 ※令和3年度より回収員を派遣契約	
当初予算額	事業費	199	223	3,906		
決算額	事業費	120	1,495	—	【特定財源】	
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			«事業の参考数値等»	
指標名		回収日数		単位	日	
指標の説明		年間回収日数				
目標(見込)		令和元年度		令和2年度	令和3年度	
実績		140		146	144	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			«事業の参考数値等»	
指標名		回収量		単位	t	
指標の説明		年間回収量実績				
目標(見込)		令和元年度		令和2年度	令和3年度	
実績		33		35	35	

個別評価							
妥当性		本事業を市が行うのは妥当か。		妥当である。		B	
		対象範囲や水準、手段は妥当か。		概ね妥当であるが見直しの余地がある。			
		事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。		影響は大きい。			
有効性		目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。		一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B	
		類似事業との統廃合はできるか。		統廃合はできない。/類似事業はない。			
		事業の上位目標である施策に貢献しているか。		貢献している。			
効率性		事業費削減の余地はあるか。		削減の余地はない。		A	
		人件費削減の余地はあるか。		削減の余地はない。			
		受益者負担の割合は適正か。		受益者負担を求める性質のものではない。			

総合評価		現状維持		今後の改善内容			
(担当部局による総合評価の理由や課題)		(令和3年度以後の事業実施への改善内容)					
ごみ減量化及び再資源化の係る点から見ても必要な事業である。今後、回収量の増を図るべく、回収拠点の増加などの方策を検討していく必要がある。		令和3年度以降、回収にあたる人員についてみのりの里と派遣契約を行った。					

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		古紙回収助成事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2843			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	7	ごみの減量化と再資源化		款	4	衛生費	
	施策の方向	2	ごみの再資源化の推進		項	2	清掃費	
					目	3	ごみ・減量リサイクル事業	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	古紙等を回収し再生業者に引き取り依頼をしている自治会、町会等						
	目的 (どうしたいか)	ごみの減量化及び再資源化を図る。						
	手段 (事業内容)	古紙等を回収し再生業者に引き取り依頼をしている自治会、町会等に対し助成金を交付する。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
当初予算額	事業費	5,000	4,900	4,900	【事業費】 助成金 3975千円	
決算額	事業費	4,185	3,975	—	【特定財源】	
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	古紙集団回収実施団体登録数	単位	件	
指標の説明	前期・後期分延べ回収実施団体数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	302	310	310	
実績	301	301	—	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	古紙集団回収量	単位	t	
指標の説明	年間回収量			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	2,500	2,500	2,500	
実績	2,093	1,847	—	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価		現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題)			
インターネットや電子書籍が普及し、新聞や雑誌などのペーパー類は減少傾向にある。子ども会等の廃止や回収活動の縮小により回収量の減少や廃棄物として処理されることが懸念される。この事業は、ごみの減量化及び再資源化につながる事業であり、より一層市民の協力を得られるように啓発を図る。			

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		ごみ収集事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2843			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	7	ごみの減量化と再資源化		款	4	衛生費	
	施策の方向	3	効率的なごみ処理方法の検討		項	2	清掃費	
					目	2	塵芥処理費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	一般家庭						
	目的 (どうしたいか)	一般廃棄物の排出を抑制し、再利用を促進するとともに、一般廃棄物の適正な処理を行い生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。						
	手段 (事業内容)	市内の家庭から発生する一般廃棄物(ごみ)を業務委託により収集及び運搬を行う。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 家庭ごみ収集委託料	
当初予算額	事業費	682,809	694,030	7,175,421		
決算額	事業費	682,504	699,842	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			«事業の参考数値等»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 家庭ごみ収集委託料	
目標(見込)		24,500	23,993	24,000		
実績		26,732	24,685	—		

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			«事業の参考数値等»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 家庭ごみ収集委託料	
目標(見込)		601	592	590		
実績		661	615	—		

個別評価									
		妥当性	有効性	効率性					
					本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。			
					対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。			
					事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。			
		有効性	効率性	効率性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。			
					類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。			
					事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。			
		効率性	効率性	効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。			
					人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。			
					受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。			

総合評価		現状維持		今後の改善内容	
(担当部局による総合評価の理由や課題)		(令和3年度以後の事業実施への改善内容)			

市民生活に直結するため、引き続き収集業者に対する適切な指導を行いながら、適正な収集・運搬を行い、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に努める。

今後も安定的に塵芥処理事業を継続できるようにしていく。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		し尿収集事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2841			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	7	ごみの減量化と再資源化		款	4	衛生費	
	施策の方向	3	効率的なごみ処理方法の検討		項	2	清掃費	
					目	1	清掃総務費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	一般市民						
	目的 (どうしたいか)	一般廃棄物の排出を抑制し、再利用を促進するとともに、一般廃棄物の適正な処理を行い生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。						
	手段 (事業内容)	市内の家庭から発生する一般廃棄物(し尿)を業務請負により収集及び運搬を行う。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 し尿汲取業者助成金	
当初予算額	事業費	19,200	18,200	16,879		
決算額	事業費	18,226	170,395	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			«事業の参考数値等»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	汲取り人口 H30年度 4,861人 R元年度 4,551人 R2年度 4,265人	
目標(見込)	事業費	4,500	4,300	4,200		
実績	事業費	4,551	4,231	—		
成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)				
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	汲取り人口 H30年度 4,861人 R元年度 4,551人 R2年度 4,265人	
目標(見込)	事業費	100	100	100		
実績	事業費	100	100	—		

個別評価									
		妥当性		有効性		効率性			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。		目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。 類似事業との統廃合はできるか。 事業の上位目標である施策に貢献しているか。	期待どおりの成果が上がっている。 統廃合はできない。/類似事業はない。 大きく貢献している。	A			
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。							
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。							
有効性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		人件費削減の余地はあるか。 受益者負担の割合は適正か。	削減の余地はない。 適正な受益者負担である。	A			
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。							
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。							

総合評価		現状維持		今後の改善内容	
(担当部局による総合評価の理由や課題)		(令和3年度以後の事業実施への改善内容)			
収集業者に対する適切な指導を行いながら、適正な収集・運搬を行い、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に努める。		下水道の普及に伴い、徐々に事業として縮小となっていく。			

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		柏羽藤環境事業組合負担金事務事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2841			
総合基本計画	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち	予算科目	会計	1	一般会計	
	施策	7	ごみの減量化と再資源化		款	4	衛生費	
	施策の方向	3	効率的なごみ処理方法の検討		項	2	清掃費	
					目	1	清掃総務費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	一般廃棄物(家庭系・事業系・し尿)						
	目的 (どうしたいか)	一般廃棄物の適正な処理を行い、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。						
	手段 (事業内容)	市内及び市内事業所から排出された一般廃棄物の中間処理及び最終処分を近隣3市(柏原市・羽曳野市・藤井寺市)で構成する一部事務組合で処理を行い、搬入量に応じた負担金を各市から支出し、適正で効果的な廃棄物の処理を行う。						

予算・決算額		(単位:千円)			『主な内訳(令和2年度決算)』	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
当初予算額	事業費	885,738	806,462	785,000	【事業費】	
決算額	事業費	810,038	789,453	—	負担金	
	特定財源等	0	0	—	経常的経費 782,760千円	
					臨時の経費 6,693千円	
					【特定財源】	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	柏羽藤環境事業組合負担金		単位	千円
指標の説明	一年間の羽曳野市の負担金			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	885,738	806,462	785,000	
実績	810,038	789,453	—	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	ゴミ・し尿処理率		単位	%
指標の説明	羽曳野市域におけるゴミ及びし尿の処理率			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	100	100	100	
実績	100	100	—	

個別評価					
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。		A	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。			
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。			
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		A	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。			
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。			
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		B	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。			
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。			

総合評価		現状維持		今後の改善内容					
(担当部局による総合評価の理由や課題)									
一般廃棄物の共同処理を目的とした一部事務組合に加入し、運営費用の一部を負担するもので、スケールメリット(規模効果)により適正かつ効果的に廃棄物処理が行われていることから、今後とも本事業を継続することは妥当である。引き続き、構成3市と事務組合で効果的で適正な運営に向けた検討を続けていく。									
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)									
より廃棄物の減量化を啓発し、費用を圧縮していく。									

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		水銀等使用廃製品の分別収集事業		事務の種類	自治事務(義務的なもの)				
総合基本計画	担当部署名		環境衛生課		連絡先	内線2843			
	施策目標	2	地域がつながり 安全で心安らぐまち			予算科目	会計	1	一般会計
	施策	7	ごみの減量化と再資源化				款	4	衛生費
	施策の方向	3	効率的なごみ処理方法の検討				項	2	清掃費
					目	3	ごみ減量・リサイクル事業費		
事業の概要	対象 (誰を・何を)	一般家庭							
	目的 (どうしたいか)	羽曳野市でいきいきと安心して暮らせる環境を整える。							
	手段 (事業内容)	法の求めにより、家庭から排出される一般廃棄物のうち、水銀等使用廃製品を分別収集する。							

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
当初予算額	事業費	16	2	3,786	【事業費】 派遣委託料(ペットボトル回収と一括契約)	
決算額	事業費	16	0	—	【特定財源】	
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	収集回数	単位	回	
指標の説明	年間回収量実績			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	52	52	50	
実績	52	52	—	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	収集運搬量	単位	kg	
指標の説明	年間回収量実績			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	5,000	9,000	9,000	
実績	8,736	11,081	—	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価		現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題)		(令和3年度以後の事業実施への改善内容)	
生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。 水俣条約・水銀汚染防止法・廃棄物の処理及び清掃に係る法律施行令・同施行規則・大気汚染防止法		令和3年度からペットボトル回収派遣委託事業に本事業を含めて契約することにより、安定的な回収を図った。	

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業名		と畜場管理運営事務事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)			
担当部署名		環境衛生課		連絡先		内線2811		
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	予算科目	会計	3	と畜場特別会計	
	施策	2	商工業・サービス業		款	1	総務費	
	施策の方向	3	地域産業の活性化		項	1	総務管理費	
					目	1	一般管理費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市立南食ミートセンター						
	目的 (どうしたいか)	計画的な施設整備により衛生管理に努め、重要なタンパク源である良質な食肉を安全かつ安定的に供給する。						
	手段 (事業内容)	地場産業の育成と発展を図るとともに、と畜場の健全な運営と今後の運営のあり方について協議を継続していく。						

予算・決算額		(単位:千円)			«主な内訳(令和2年度決算)»	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】	
当初予算額	事業費	59,941	61,080	69,010	・一般管理費	15,285千円
決算額	事業費	55,378	58,966	—	・汚水浄化施設管理運営費	37,323千円
	特定財源等	0	0	—	・管理運営委託料	6,358千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	開場日数	単位	日	
指標の説明	ミートセンターが開場した日数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	140	140	140	
実績	141	132	—	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	処理頭数	単位	頭	
指標の説明	一年間に処理した牛馬の頭数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標(見込)	12,000	11,500	11,500	
実績	9,932	9,451	—	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 建物及び設備の経年による老朽化に伴い、修繕箇所や修繕費用等も増加傾向にあるものの、指定管理者の経営努力により効率的な運営が行われている。		(令和3年度以後の事業実施への改善内容) ミートセンターのあり方についてはこれまでどおり大阪府や地元組合と引き継ぎ協議を継続していく。